

**島原市の
地域包括ケアシステムの
まちづくりを目指して
～地域包括支援センターの取組～**

島原市地域包括支援センター 辻 敏子

報告の内容

1. 島原市の概要
2. 介護予防の取組
3. 地域づくりの取組
4. リハビリテーション専門職への期待

島原市の概要



有明海にひらく湧水あふれる
火山と歴史の田園都市



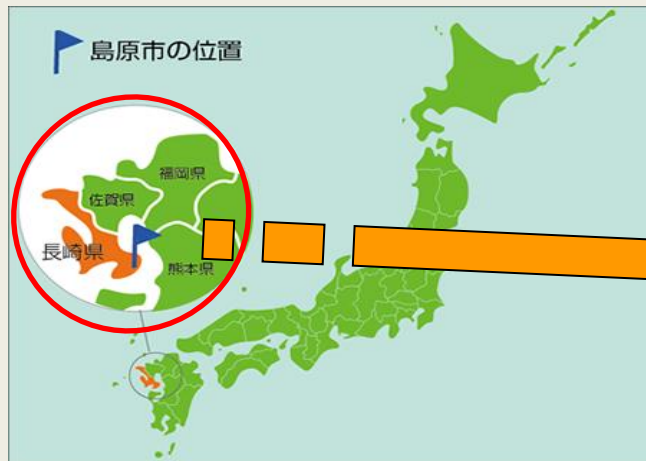
島原半島ジオパーク キャラクター 「ジークン」



島原市人口：43,846人
高齢者人口：15,630人

高齢化率：35.6%
介護認定率：21.7%

(令和3年7月末現在)



島原半島3市で広域連合を組み介護保険事業を実施

島原市地域包括支援センターの概要

**保健師
(3名)**

**社会福祉士
(3名)**

**主任ケアマネ
(4名)**

**介護予防ケア
マネジメント
専従職員**

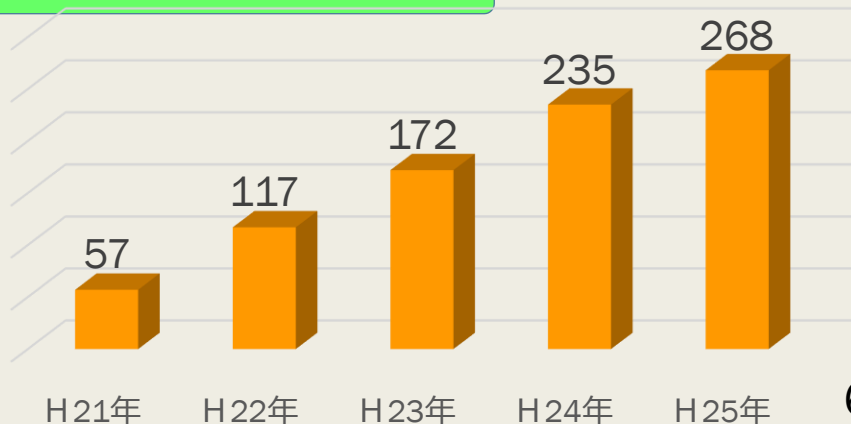
**包括的支援事業
【3職種 + 事務職員2名】**

**指定介護予防支援事業
【プランナー：6名】**

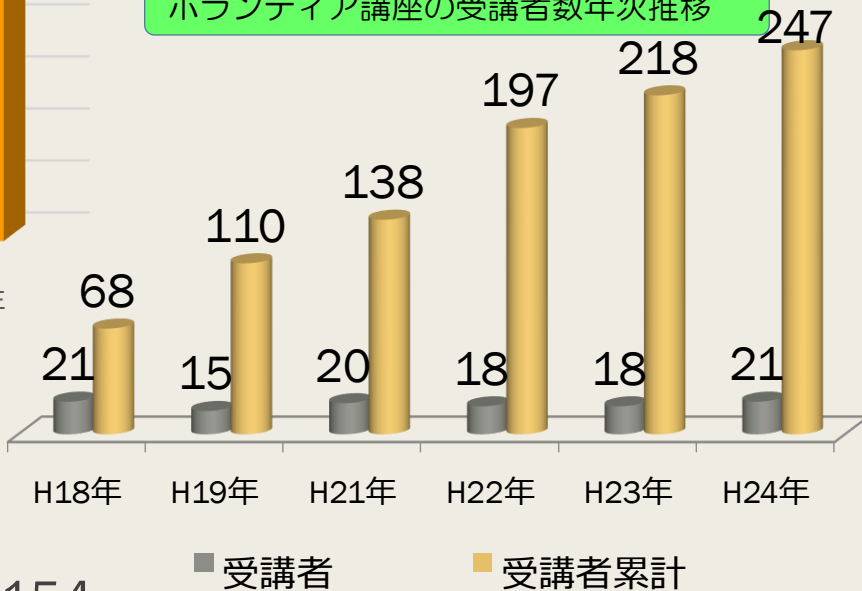
**在宅医療・介護相談センター
【担当職員1名 + 事務職員1名】**

介護予防に関する取組

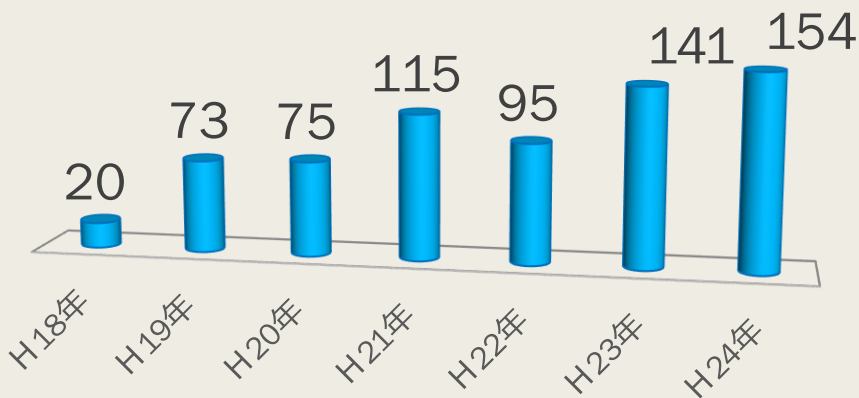
一次予防事業参加者の年次推移



ボランティア講座の受講者数年次推移



二次予防事業への参加者



- 一次予防・二次予防ともに
微増ではあるが
- 参加者が増え介護予防の意義は
周知できている

島原市の在宅医療に関する取組

機能を強化した在宅支援診療所（連携型）

複数の医療機関が連携して以下の要件を満たすこと。

- 1) 在宅医療を担当する常勤医師が3名以上。
- 2) 過去1年間の緊急往診・夜間・深夜往診実績が5件以上。
- 3) 過去1年間の在宅における看取り実績が2件以上。
- 4) 24時間体制で直接連絡がとれる電話番号の一元化。
- 5) 診療情報の共有のため、月1回以上のカンファランス開催。

上記体制を作り、訪問看護ステーションと密接な連携を保ち、在宅看取りを推進する。

（H24年8月、島原医師会員5名にて届け出）

在宅医療・介護相談センター（包括に併設）

- ・多職種連携のための事例検討会・研修会の開催【在宅医療サークル】
- ・医療と介護の情報共有シート等の作成と活用促進【A・B・Cシート】
- ・市内の医療・介護情報の集約と発信【島原市のちからこぶ】
- ・在宅医療に関する相談支援【終活ノート】

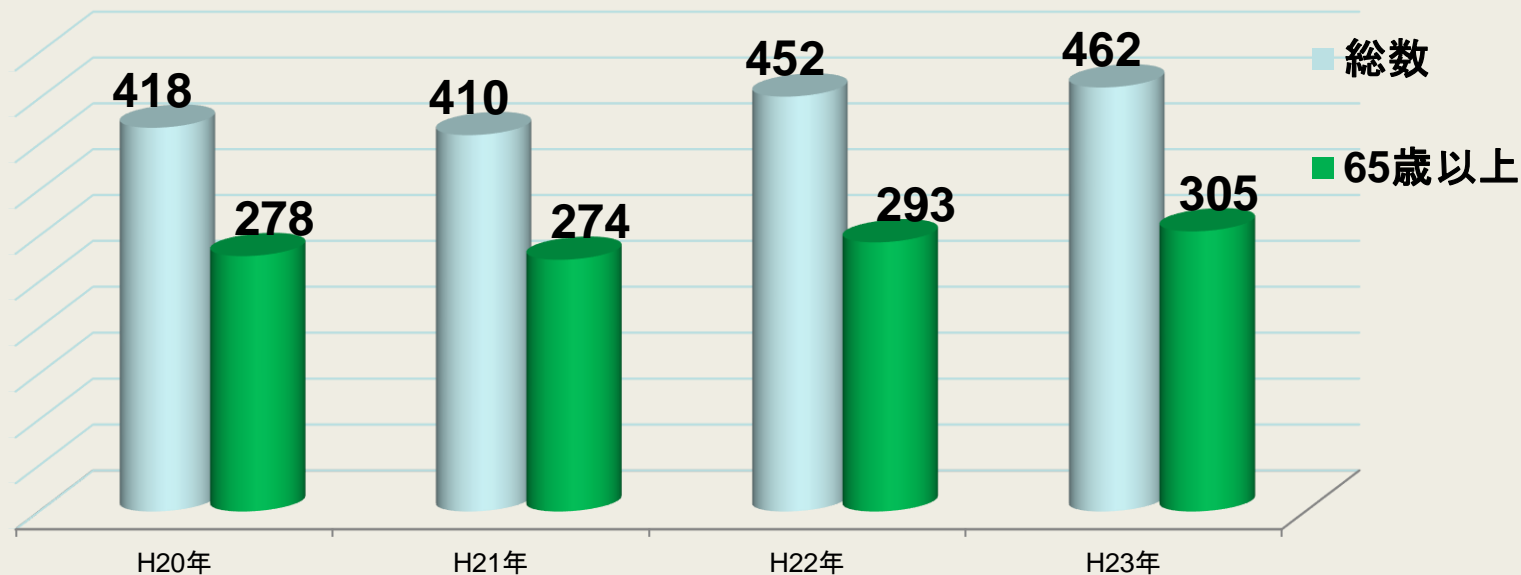
（H27年4月、県医師会の事業補助で島原市医師会が設立、活動を開始
現在は介護保険事業の地域支援事業で実施）

高齢者の見守りネットワークに関する取組

1. 高齢者のみの世帯の増加

65歳以上		(島原市)	(全国)
		単身世帯	13.3%
	夫婦世帯	14.1%	11.4%

2. 孤立死の増加(長崎県内)



高齢者等見守りネットワーク協議会

目的

高齢者等が地域で安心した生活を送れるよう、行政と地域が一体となって高齢者等の見守り等を実施するため支援体制の構築をめざす。

早期発見と見守り

外部団体に呼びかけ、

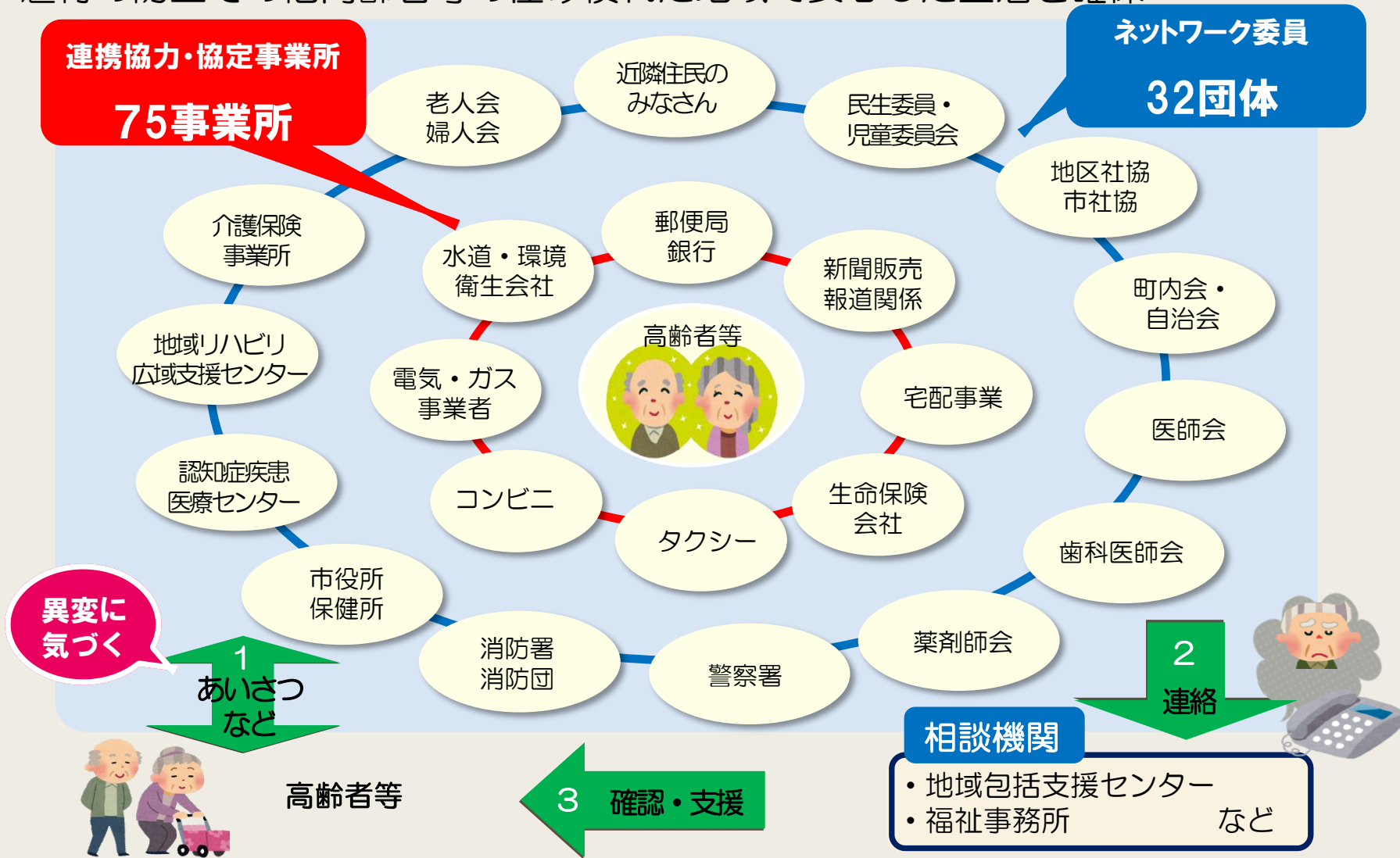
高齢者等見守り支援ネットワーク協議会を設置。

- ◆先進地視察
- ◆高齢者見守り支援ネットワーク講座の開催
- ◆高齢者声かけ模擬訓練の実施
- ◆高齢者見守りパンフレットの作成

郵便局、郵便事業、ヤクルト、九州電力とは島原市医師会、島原市と3者で**事業協定**を結び、日常業務のなかで異常を発見したときに迅速な通報を行う。

島原市高齢者等見守りネットワーク協議会

見守りの在り方を検討することにより、高齢者等の孤立死及び高齢者に対する虐待の防止その他高齢者等の住み慣れた地域で安心した生活を確保



連携協力・協定事業所の拡大

連携協力・協定事業所連絡会

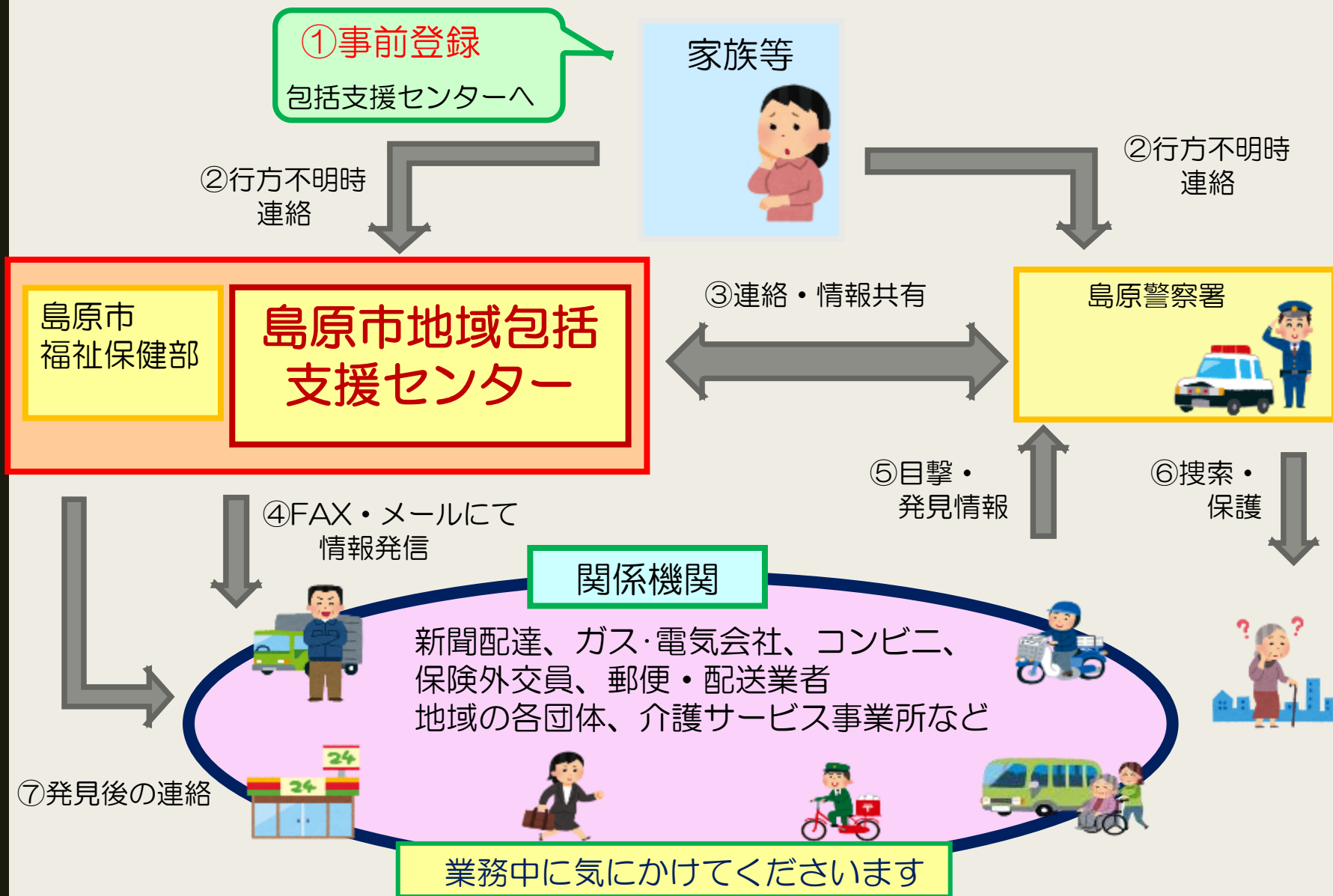
各事業所と、島原市医師会、島原市と3者で協定を結び日常業務のなかで異常を発見したときに迅速な通報を行う。

H23年	5事業参加	郵便局、電力会社、乳酸飲料販売店、市水道局
H24年	17事業追加	ガス、宅配サービス事業者、新聞社、環境部門
H26年	5事業追加	コンビニ、生命保険会社
H27年	13事業追加	衛生会社、タクシー会社
H28年	18事業追加	報道関係、金融機関、鉄道会社、商店街
H29年	5事業追加	スーパー、介護タクシー
H30年	13事業追加	コンビニ
R元年	4事業追加	スーパー、清掃業者
R2年	3事業追加	生活支援、コンビニ

閉鎖等により9者終了
(令和3年10月現在)

74 (83) 事業所と協定を結んでいます

島原市高齢者等SOSおかえりネットワーク



島原市地域ケア会議を活用した地域づくり

島原半島介護保険事業計画作成委員会

1~2回/年【保険者レベル】

- ・市レベルでは解決できない課題・保険者として対応すべき課題

島原市定例地域ケア会議：広域圏主催

3回/年【市レベル】

- ・市レベルの地域課題の抽出・提出事例の集約とまとめ

島原市定例地域ケア会議：包括C主催

9回/年【市レベル】

- ・個別事例から抽出された課題・地域の専門職が把握した課題

個別ケア会議

随時【地域レベル】

- ・個別事例の課題解決
- ・専門職へのOJT

小地域ケア会議

毎月【市レベル】

- ・介護支援専門員のスキルアップ
- ・事例検討会の学習
- ・情報や意見交換

自立支援型ケア会議

毎月【市レベル】

- ・自立支援に資するケアマネジメントの検討

事業に取り組む姿勢

1. 仕事は楽しく、いつでもチャレンジ
 - ・新規事業は全員で納得いくまで意見交換
 - ・負担は分散、やるからには楽しく取り組む
2. 参加者とは協働
 - ・参加者はお客様ではなく同じ目線の協働者
 - ・参加者の感想や意見を傾聴し活かす
3. 行政とは歩み寄り
 - ・依頼は断らないが、こちらの意見も通す
4. 制度の波に乗って流されず
 - ・介護保険制度は走りながら創られる
 - ・センターに求められることをその時々に合わせてカスタマイズしながら実施



リハビリテーション専門職への期待

1. 地域との関わりを持った活動
 - 会議や研修は呼ばれて参加でなく自ら参加を
 - ちょっとした立ち話も顔見知りと明日への連携
2. 利用者や多職種と同じ目線
 - 上から目線の指導・助言では人は動かない
 - その人の目線に合わせて周囲を見渡す
3. 在宅・施設にこだわらない柔軟な選択
 - どちらかを選べではなく、どちらもありでOK
4. 意欲とやる気の必要性
 - 身体だけが回復しても生活は継続できない
 - 逆にやる気があれば身体はついてくる

